

広報

大槌

広報おおつち NO.598

初冬の風物詩「おおつち鮭まつり」

復興通信

私たちがつくる私たちの新しいまち～⑩小中一貫教育校

公共交通コラム おおつち海の勉強室

ひょうたん島日記

1

2015. 1. 5

逆境から発想する 希望の大槌を目指して

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、震災から歳月が経過する中、厳しい環境下でありながらも、逆境に立ち向かう強い気持ちで将来に向けて希望を膨らませて、輝く新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。被災されました皆様改めて心からお見舞い申し上げます。

昨年中は、住民主体のまちづくりの下、地域復興協議会やワークショップなどを通じて真剣にまちづくりに参加され、議論を深めて頂きましたこと、町民の皆様はじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

お陰様で、第1期の復旧期（23～25年度）を終え、災害復旧から復興事業に移り、各集落において防災集団移転促進事業、土地区画整理事業、災害公営住宅整備事業などで、多くの諸課題を抱えながらも槌音が響きはじめています。

これからの新しいまち並みや暮らしをどう再生していくか、ここで住む町民がいかに助け合い支え合いながら地域社会を築いていくか、これら町民の暮らしを支える居住環境や社会的・経済的・文化的環境についての復興方針を定めた第2期の再生期（26～28年度）が昨年4月からスタートしております。

その重点プロジェクトとして、①風景再生プロジェクト②協働まちづくりプロジェクト③おおつち型地域包括ケア推進プロジェクト④コミュニティ連携プロジェクト⑤おおつちブランドプロジェクト⑥観光振興プロジェクト⑦地域教育プロジェクト⑧おおつち文化継承プロジェクトに取り組んで参ります。

また町有史以来、先人が長年にわたって強

いられてきた不便さを解消する三枚堂・大ケ口間の集落間トンネル化について、早期にルートを決定し、バスが循環するコンパクトなまちづくりを展望し、早期の事業化に取り組んで参ります。

暮らしの再建に不可欠な医療、福祉、教育については、既に県立大槌病院、小中一貫校はじめ大槌消防署など、公共施設事業が順次進められています。ソフト面では健康づくりのまちを目指して「元気・活いき大槌21プラン」、障がい者の社会生活向上を目指す「大槌町障がい福祉プラン」、子育て環境の整備を図る「大槌町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、各種施策を展開して参ります。

生業の再生では、新たに6社を企業誘致したところであり、今後、町内産業のけん引や住民の安定雇用など、地域経済への波及効果を大いに期待しているところです。また交流人口の拡大も重要な政策として復興計画にも盛り込んでおり、まちづくりと併せて町の顔ともいえる魅力ある中心市街地の商店街形成や観光開発にも力を傾注して参ります。また地域の特性を生かした大槌ブランド開発や起業起しを積極的に進めて参ります。

震災前、東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターには、多くの研究者や学生が訪れていました。世界最新鋭の海洋調査研究船である「新青丸」の母港が大槌港となったことで、大槌は、世界から注目される海洋調査の拠点として位置づけられ、交流人口の拡大が期待されます。

こうした中、国では人口減少と東京一極集中の是正をめざして、まち・ひと・しごと創



大槌町長

平成二十七年 元旦

生本部を設置し、危機感をもって取り組んでいこうとしています。地域の活力が求められている被災地にとりましては、またとない千載一遇のチャンスと捉え、町としても持続可能なまちづくりを目指し、単に元の町に戻すことなく、逆境から発想する希望の大槌を目指して取り組んで参ります。

大槌町には、広く誇れる豊かな自然や歴史、風土、そして豊かな人のつながりがあります。地域の持つ力を最大限に生かせば、きっと立ち直っていくことができます。その力の源泉となるのは、町民一人おひとりの未来へ引き継ぐ大槌の心意気です。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。年頭に当たってのご挨拶いたします。

大槌

広報おおつち NO.598
2015年1月5日

目次

3	町長から年頭の辞 ～最大限に生かそう地域の力	17	保健だより
4-11	復興通信 私たちがつくる私たちの新しいまち ～⑩小中一貫教育校 復興を支える人支える団体 ～浦田大輔さん 傾聴ボランティア大槌ひまわり 公共交通コラム⑤ おおつち海の勉強室⑥	18	すくすく赤ちゃん PHOTO まちかど
12-15	農林水産課からのお知らせ ほか	19	ひょうたん島日記
16	大槌町地域包括支援センターのページ 楽笑幸齢者になろう ほか	20-21	教育委員会だより 城山の風 第83号
		22-23	大槌町カレンダー まちのお知らせ
		24	大槌学のすゝめ②① 編集後記

表紙の写真：「おおつち鮭まつり」で催されたサケのつかみどり＝12月7日

定点観測（2014年12月18日、城山から）



小中一貫教育校校舎の完成イメージ



私たちがつくる
私たちの新しいまち
～⑩小中一貫教育校～

大槌小学校の仮設校舎で学ぶ児童たち

平成27年4月に開校する小中一貫教育校「おおつち学園」(仮称)の校舎の建設が正式に決まりました。二度の入札が不調に終わり、11月半ばに行われた三度目の入札で落札者が決まりました。平成27年1月ごろに着工、28年9月完成をめざしています。利用開始は28年10月ごろになりそうです。

校舎は平成28年9月完成予定
「おおつち学園」(仮称)の新校舎は、校舎棟(延床面積8874㎡)、体育館(3600㎡)、プール棟(199㎡)、駐輪場棟(375㎡)で構成され、校舎棟は木造一部鉄筋コンクリート造り2階建てです。校舎には、大槌町産材などが使用され、木の香りが豊かな空間が創られます。建設される場所は現在の大槌高校のグラウンドの敷地内で、大槌高校のグラウンドは現在の校舎の東側に新たに造成されます。

入札は手をあげる建設業者が極めて少なく二度不調でした。このため、事業費を増額し、工期についても3カ月間余裕を持たせた結果、11月19日の入札で、銭高組(大阪市)が49億8800万円で落札しました。

着工予定は平成26年度下半期から平成27年1月に、完成予定も平成28年4月から平成28年9月に、それぞれです。
さらに、「おおつち学園」(仮称)でも、「きりぎり学園」(仮称)でも、地元の人たちと連携し、一緒に児童生徒を見守り、育てることをめざします。

人の気持ちを理解する子どもにも
小中一貫教育という新しい試みを父母はどう評価しているのでしょうか。大槌小PTA会長の東梅康悦さんにかがいました。

「教育委員会から小中一貫教育の提案を聞いて、最初は、正直、雲をつかむような話だと感じました。中学生に上がる際、それまでの生活リズムや学習の進め方などでギャップを感じ、伸び悩む子どもたちも時に見られます。そのギャップを少しでもなくし、切れ目のない教育で子どもたちの能力を伸ばすメリットがあると聞き、納得しました」

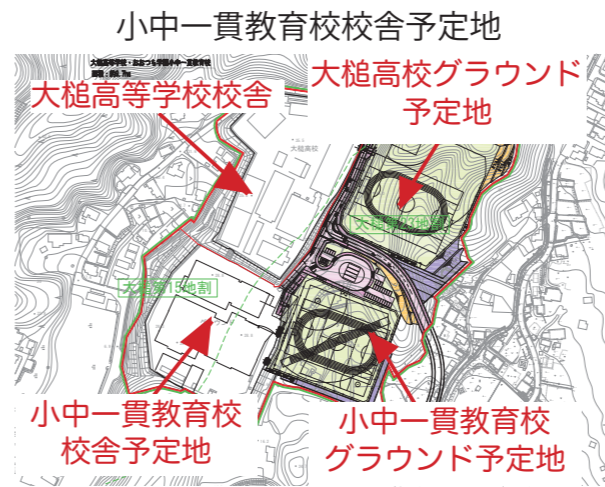
「中学校へ上がる際、制服をそろえたり、通学する校舎が変わったり、各地区から来る生徒と交流したり、中学生になるぞ、という緊張感がなくなるのは少し寂しい気もします。しかし、9年間同じメンバーで学校生活を送ることが、プラスする方向へ向かってほしいと思っています」

れ延びました。

大槌小、大槌中の児童、生徒は、震災により校舎が被災したり避難所になったりし、現在は、仮設校舎での学校生活を余儀なくされています。新校舎建設で、落ち着いた教育環境が整うことになりそうです。

小中一貫教育は、これまでの試行期間を経て、平成27年4月から本格的にスタートします。大槌小、大槌中は施設一体型の「おおつち学園」(仮称)になり、吉里吉里小と吉里吉里中は施設分離型の「きりぎり学園」(仮称)になり、それぞれ9年制の学校が誕生します。

小中一貫教育では、9年間を通して一貫したカリキュラムのもと授業に取り組みます。子どもたちの成長を連続してとらえ、生活や学習のり



ます」

「震災の後、仮設校舎で学び、大変な思いをしてきたことで、人の気持ちを理解する子どもたちになってほしい。新しい環境の中で、勉強はもちろんですが、素直で健康に育ってくれることを願います」



大槌町の文教の拠点になる沢山地区の復興事業に向けた安全祈願祭が9月9日に現地でありました。大槌高校の新しいグラウンド、小中一貫教育校のグラウンド、学校から県道につながる幹線道路、防災集団移転団地をそれぞれ整備する事業が一体的に実施されます。祈願祭で碓川豊町長は「一貫校で、豊かな情操を養い、活力ある大槌人を育てたい」と祝辞を述べました。

防集団地の用地取得状況について

町では、防災集団移転促進事業による移転先住宅団地の整備を進めています。用地取得状況については復興まちづくり懇談会などで説明していますが、12月末時点での各地区ごとの進捗状況は下表のとおりとなっています。今後も、住宅団地の早期供用のため、迅速な用地取得に努めていきます。

■防集団地の用地取得状況

地区	用地取得状況 (%)	
	前回公表時点 (復興まちづくり懇談会)	平成26年 12月末現在
町方	67%(H26年9月時点)	➡ 76%
安渡	43%(H26年11月時点)	➡ 58%
赤浜	53%(H26年11月時点)	➡ 72%
吉里吉里	100%(H26年11月時点)	➡ 100%
浪板	100%(H26年6月時点)	➡ 100%

※区画整理区域内の敷地も含む



吉里吉里 B 団地造成工事の光景

都市整備課 Tel 0193-42-8723

仮申込みの実施について

現在も応急仮設住宅などに居住されている被災世帯の皆さまを対象に、「仮申込み」の受け付けを12月9日から実施しています。未だ調査票を提出されていない方は、1月18日(日)が締め切りとなっていますので、必ず提出して頂きますようお願いいたします。

■対象となる世帯

- ・東日本大震災の被災者で住宅未再建の世帯
- ・住宅未再建世帯とは、原則として以下の全てに当てはまる世帯のことをいいます。

- ① 災害公営住宅に入居していない世帯
- ② 被災者生活再建加算支援金を受給していない世帯
- ③ 現在も応急仮設住宅などに居住する世帯

※住宅再建済みの世帯は、対象となりません。

■仮申込みを持参するもの リ災証明書(免許証や健康保険証など、本人確認ができるものでも可)

■役場での受け付け

	期日	時間	場所
平日窓口	1月16日(金)まで	8:30~17:15	被災者支援室(1階)
休日窓口	1月17日(土)・1月18日(日)	8:30~17:15	町民室(1階玄関脇)

■町外の受け付け

期日	時間	開催地	場所
1月7日(水)	17:00~20:00	遠野市	遠野市民センター3階 第1会議室
1月8日(木)	9:30~12:00	北上市	北上市総合福祉センター1階 ふれあいの間
	14:00~18:00	花巻市	生涯学園都市会館3階 第2・3中ホール
1月9日(金)	10:00~12:00	紫波町	紫波町総合体育館2階 研修室
	14:00~20:00	盛岡市	盛岡市勤労福祉会館5階 大会議室
1月10日(土)	9:00~11:30		

※町内の仮設住宅巡回窓口は12月で終了しています。

復興推進課 Tel 0193-27-8168

社会福祉法人大槌町社会福祉協議会
生活支援相談員
浦田大輔さん(26)

被災者と行政をつなぐ役割

震災前は町内の保育園で保育士をしていました。震災直後、社会福祉協議会で働く知人に声をかけられ、社会福祉協議会ボランティアアセンタールの手伝いを始めました。その後、町役場の臨時職員になって仮設住宅へ家電などを運ぶ仕事をし、再度、知人からの声かけで、社会福祉協議会の「生活支援相談員」に就きました。生活支援相談員は平成23年8月にできた組織です。仮設住宅の被災者から要望や意見を聞き、行政や関係機関につなぐ役割です。

「最初の頃は町民の方々とどう接していいか戸惑うことがありました。違う団体と間違われたこともありましたが、この活動を3年以上続けて、顔も覚えてもらいました。例えば、誰に相談していいかわからずにいた方が、私たちに相談し、その結果、介護ヘルパーさんが入るようになりました。お礼を言われ、本当にうれしかったです。被災者は手狭な仮設住宅での暮らしが長く続いています。運動不足になりがちで、体調のコントロールが健康の力を握っています。」



12名で構成される生活支援相談員の一人として活動する浦田大輔さん(後列右から2番目)

「今後、仮設住宅から出て、災害公営住宅に入居したり、自宅を再建したりする人たちが増えてくるでしょう。仮設住宅を去っても、仮設住宅に入居していた時と同じように、いろいろな要望や意見を出してほしいと思っています。」
プライベートな時間はフットサルや向川原虎舞に打ち込んでいます。向川原虎舞は世界や全国から支援を受けて道具をそろえました。支援へのお礼と報告を兼ねて遠征に出かけています。「仕事以外の時は、ほぼ虎舞のことばかりしています。虎舞が出来る場があったり、観光客を呼べる資源があったり、自分も町民の人たちも住んでいて良かったな、と思える町にしていきたいです」と笑顔を見せました。

「復興を支える人 支える団体」

傾聴ボランティア大槌ひまわり

丁寧に関心を持って聴く活動

東京都三鷹市のNPO団体が町内で開いた傾聴ボランティア養成講座に参加した受講者たちで2014年6月に結成されました。傾聴ボランティア団体は盛岡市や釜石市、山田町などにあり、震災後、被災者に寄り添う活動をしています。大槌町内で初めての傾聴ボランティア団体です。

傾聴とは、相手の話を丁寧に、共感を持って聴くことです。話す側はストレスを吐き出すことで心が軽くなります。共感してくれる相手がいることで生きる力がわいてきます。話を聴くことには技術が必要になります。相手の目を見て、笑顔で相づちを打ちながら聴きます。口を挟んだり、指示したりはしません。会話が途切れた時は、無理に続けようとはせずに待ちます。

メンバーは大槌町民を中心に16名です。これまで毎月数回、お茶の会の開催の場や福祉施設を訪問し、傾聴を行っています。場合によっては関係組織や専門家の方を紹介し、つなぎ役をつとめています。

〒028-1121
大槌町小槌第21地割12番地2号
小槌第7仮設絆ハウス大槌
TEL 090-1274-13595



養成講座修了の認定証書を手にした「ひまわり」のメンバー=6月7日、大槌町中央公民館での発足式

ます」と代表の小林正造さん。会員である沢館志美子さん、山崎よし子さん、藤原富美子さんの3人は「話を聴きに行くと、また来てくれた、と喜んでくださり、話せて良かったと言って下さるのがうれしい」と話しています。

「活動を通じて傾聴への理解を広げていきたい」と小林さんは考えています。会員は、傾聴を行うには自分自身が心身ともに健康であることが必要と、体調に気をつけています。メンバーは、経験を積んで個人宅を直接うかがって傾聴することをめざしています。

第3回「地域復興協議会」が行われました

11月に開催された第3回地域復興協議会の様子をお伝えします。復興事業が行われている地域では、都市施設の整備に係るデザインや集会所・公民館の検討、その他の地域では、地域コミュニティの活性化や特産品づくりなどについての話し合いが行われました。今後も、各地域における復興の進捗状況に合わせて必要とされる協議事項や、コミュニティ再生などのソフト対策について話し合いが継続されます。多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。

小枕・伸松地区

協議のポイントと結果（抜粋）

1. 集会所の配置計画や間取りについて

- ・集会所と和室が広場に面する間取りB案を選択。その他、土間と調理室をつなげてほしい、玄関に風除室を設けてほしい、バリアフリーにしてほしいなどの要望があった。今後これらの意見をふまえて詳細設計を進めていく

2. 海に見える広場の整備イメージと市民農園の必要性について

- ・市民農園のスペースを確保する（基本的に利用したい人が利用する）、水道整備は必要ない、維持管理や区画割については今後検討が必要

3. コモンスペースの空間イメージとルール

- ・コモンスペースの範囲や使い方、建物の位置、垣または柵、工作物の設置について共通ルールの要否や、今後検討が必要な内容について整理した

吉里吉里地区

協議のポイントと結果（抜粋）

1. 公民館について

- ・他の施設の体育館等との使い分けをしながら、活用していく
- ・「安心」をフリーペースのコンセプトとし、親が安心して子どもをいさせられる、みんなが監督出来る、開放的で外から見やすいような空間にする

2. まちの広場について

- ・多目的に活用できる広場をつくる
- ・多くの駐車場をつくるのが難しいので、周辺などに駐車できる場所・仕組みを確保する必要がある

赤浜地区

協議のポイントと結果（抜粋）

東海洋研周辺・蓬菜島を含むエリアの方向性

自然を活かした体験型観光拠点や、イベント広場として整備する案など次のような意見が出された

- ・現在の防波堤を改良し、海に触れられるような整備を望む
- ・子ども達の自然学習やキャンプに活用
- ・観光を支える担い手に赤浜住民が自らなる
- ・ひょうたん島を生かしたおもてなし
- ・おみやげや海の家などお店を出す
- ・ひょっこりひょうたん島祭りを海洋研跡地で開催する

浪板地区

協議のポイントと結果（抜粋）

1. 浪板海岸再生について

- ・長い時間をかけても砂浜を再生してほしい
- ・遊歩道の再整備や、キャンプ場、バーベキュー場の設置など出来ることから取り組みたい

2. 浪板海岸再生プロジェクトに対して

- ・プロジェクトの考え方や方向性についておおむね賛同が得られ、浪板海岸再生に向け、地域とプロジェクトチームが協力して進めていく必要があることが確認された

3. その他

- ・国道45と弓形道路に囲まれた跡地を観光活用したい
- ・地区内の散策路について検討したい

小鎚地区

協議のポイントと結果（抜粋）

蕨打直地区

地域の活性化について

- ・「さとやままるごとプレーパーク」イベントを地区内の福祉施設と共同開催するなどの展開が必要
- ・昔地域にあった水車を復元してはどうか
- ・地域の休耕田などを借りて農業を始めたい人にノウハウを指導する中間支援組織が必要
- ・産直を盛り上げる方法として農作物のブランド化に取り組んでどうか

一ノ渡・種戸・徳並地区

小鎚地区のコミュニティ活性化に向けて

- ・「小鎚のうまいものを食べる会」など、大々的でなく小さなイベントから始めてはどうか
- ・各集落で昔から作られている食文化について、すみ分けをしながらそれぞれの価値を高めていきたい
- ・コミュニティビジネスに向けた活動に対する支援をお願いしたい



小鎚地区の復興協議会の様子

安渡地区

協議のポイントと結果（抜粋）

1. 旧県道の歩車道境について

- ・段差は極力なくし、ボラードも設置しない
- ・日常の歩行者・自転車の安全確保と路上駐車対策は必要

2. 旧県道沿い・産業エリア側の植栽について

- ・樹種についての意向は分かれたため、また改めて意見交換を行うこととする

3. 新学校への坂道について

- ・旧県道と同様に、セミフラットの段差の小さい歩車道境界とする
- ・避難時の車の乗り捨てと、普段の歩行者・自転車の安全性のバランスを考える

4. 裏参道広場について

- ・広場は、緊急時に車を乗り捨てて高台に歩いて逃げられる機能を重視する

5. 古学校への坂道

- ・歩行空間と車の空間の色分けが必要

6. 二渡神社参道

- ・広場と道路空間を一体的にし、広く使えることを最も重視する



源水地区の復興協議会の様子

沢山・迫又・大ヶ口・源水地区

協議のポイントと結果（抜粋）

沢山・迫又地区

新しい住民との交流について

- ・特に若い世代を地域活動に巻き込みたい
- ・沢山の地域情報誌を発行してはどうか

学校との連携について

- ・花壇への植栽や、公園・広場の清掃など、地域が学校と一緒にやって行えないか

源水地区

- ・第8仮設団地集会所を今後の地域復興協議会および源水自治会の役員会の会場として活用したい

- ・お茶っこ（源水単独開催）に向けて、まずは新年会を兼ねて試行的に開催してみる。参加者への呼びかけは班長にお願いする

大ヶ口地区

- ・まちあるき（住環境点検）を行い、地域の良いところや課題点などを共有した

金沢地区

協議のポイントと結果（抜粋）

地域活動を通じたコミュニティの再生と、活力ある金沢の創造に向けて

- ・金沢の特産品の開発については、何をつくるか、誰がつくるか、試食会の開催など今後の進め方について協議を深める必要がある
- ・金沢そば（仮）の開発について、「きじそば」「100%そば粉」「水車の復活」「金山ツアーとの連携」など金沢の特色を出していくことが求められる
- ・金山めぐりツアーの実現に向け、その目的や具体的な活動の内容など検討すべき課題が多くある

地域復興協議会開催のご案内（予定）

今後開催される協議会の予定をお知らせします。変更になる場合もございますので、1月20日号の広報誌に折り込みとなるチラシをご確認下さいますようお願いいたします。

地区名	日時	場所
小枕・伸松	1月30日（金） 18：30～21：00	大槌町役場 大会議室（3階）
小鎚	1月30日（金） 18：30～21：00	小鎚多目的集会所
大ヶ口・源水・柁内・前段・和野	1月31日（土） 10：00～12：30	大ヶ口多目的集会所
安渡	1月31日（土） 13：30～16：00	大槌町役場多目的会議室
沢山・迫又	1月31日（土） 14：00～16：30	沢山（仮）自治会館
浪板	2月6日（金） 18：30～21：00	浪板交流促進センター
吉里吉里	2月7日（土） 10：00～12：30	吉里吉里公民館
赤浜	2月8日（日） 13：30～16：00	旧赤浜小学校

【お問い合わせ先】 総合政策課 TEL：0193-42-8724

公共交通コラム

「みんなの足はみんなで守る！」

第5回 みんなで取り組む交通まちづくり

交通ジャーナリストの鈴木文彦先生とともに、大槌の公共交通はどうあるべきかを考えていくこのコラム。前回、住民が地元の公共交通に「今よりも乗る」ことの重要さに触れていただきました。今回は、住民と公共交通の関わり方や公共交通の再生がまちづくりにうまくつながっている事例をご紹介します。

前回は触れたとおり、地域交通にとって大切なことは、地域のニーズに合った交通サービスが適切に提供されていて、生活移動が多少不便はあってもまかなえることと、それが将来にわたって持続できることです。とりわけ「持続性」というのは大切です。移動に不便を感じる人が増えるのは、高齢化が進むこれからの5年、10年なのですから。これを踏まえた上で、どうしたら持続できる地域公共交通ができるのかを考えると、事業者と沿線地域の行政、住民がみんなできり、育て、守っていく、つまり「協働」への転換が望まれます。本場に地域にとって必要な交通手段であるならば、事業者だけでなく自治体も住民も、その持続に向けての責任と役割を分担するという考え方で。

一人一人が当事者意識を

日本では、鉄道やバスなどの公共交通は歴史的に営利事業として運営されてきたため、県や市町村などの地方行政の関わりや社会的な位置づけはほとんどなされずに最近まで進まなかった。このため、鉄道やバスは鉄道会社やバス会社が走るもの、というものが、長年にわたる交通に対する一般の考え方で。鉄道やバスの経営が難しくなると、今度は「ダメになったら国や県、市町村が補助を出して何とかしてくれ、時代になりました。現在もこの段階を抜け出していないのかもしれない。

もちろん、鉄道・バス・タクシー会社はプロとしてのノウハウを十分に發揮して安全・確実な運行に責任を果たすとともに、乗ってもらえるように努力と工夫を続けなければなりません。そして行政は、将来的な公共交通の必要性を再認識し、「社会的インフラ」という観点から交通をしっかりと位置づけた上で、単に補助金を出すというより社会的投資という意味での支援をすることが望まれます。

でも、それだけではすべて人任せになってしまい、どうにもならなくなった時に手遅れになります。自分たちの地域生活にとってどんな交通を形成するのが望ましいのか、単に事業者や行政へ要望して誰かにやってもらうだけでなく、住民が自ら提案し、また積極的に関わって、よりよいものをつくり、育てていくことが必要です。住民の関わり方の中で大切なのは、前回提示したように、まずは「利用する」＝運賃を支払って乗る機会を増やすことです。そのことが最も確実に「持続」につながります。「乗って残そう」という考え方は、もちろんそれだけでなく、いろいろな応援のしかたがあります。駅の清掃をしたりバス停にベンチを設置したり、最近の全国の事例の中には、鉄道沿線にみんなで花を植える「花いっぱい運動」や、鉄道やバスに乗ってきた観光客を駅やバス停で迎えてもてなす「ウエルカム活動」などをはじめ、中には周辺の住民が寄附を集めて駅のトイレを造ってしまったところもあります。また、沿線の高校生が駅待合室を造ったり、無人駅の待合室に壁画を描いたりした事例もあります。こうして一人一人が「当事者」意識をもって関わることが、地域の公共交通を維持・活用するために必要なことです。



古い車両も観光資源としてみんなで支えようとするひたちなか海浜鉄道

「市民鉄道」が地域を変える

特に鉄道は、その存在自体が観光資源になったりマスコミに取り上げられたりすることによって、地域の知名度やイメージを上げ、まち全体が活性化する場合があります。鉄道を、あるいは駅をうまく活用することによって、訪れる人が増え、その人たちが沿線歩き、また沿線地域間の交流が生まれ、結果として地域が潤い、活気が生まれるのです。茨城県のひたちなか海浜鉄道というローカル鉄道がそれを実践してきました。民間の鉄道会社が続けられなくなった鉄道をどうするか、沿線みんなで議論した結果、沿線の市が出資する第三セクターに転換し、自治会や商工会、商店街、観光協会などが集って「応援団」を構成し、会社と一緒に市民を巻き込んでサービスの向上やイベントの実施、全国へのPRと市民へのアピールなど、さまざまな取り組みをしています。そして震災によって4カ月間不通になったことが、全市民的に鉄道を守り活用しようという気運につながりました。まさに協働による「市民鉄道」が成立し、利用者も増えています。そしてみんなが一体となって工夫した成果として、駅に降りて市街地を歩き、買い物や飲食で「お金を落とす」という人が増えました。鉄道を軸にまち全体が再生に向かいつつあります。まさに交通は「まちづくり」に直結しているのです。



無人駅に高校生が描いた壁画。きれいにしただけで防犯にも役立った(長崎県・松浦鉄道)



この駅を利用する高校生が手作りホームに待合室を作製(山形鉄道)

交通ジャーナリスト 鈴木文彦



⑥ 記憶力抜群！貝殻のロミン

みなさん、世界で一番長生きする動物はなにか知っていますか？ ちなみに人の最長寿記録はフランスの女性、ジャンヌ・カルマンさんで122歳まで生きました。ゾウガメは152歳という記録があります。意外に長生きする動物として、ウニの仲間には200年以上生きるものもいます。ただ、日本の場合は寿命が来る前に捕まえられる食べられてしまっているでしょう。魚にも長生きするものが出て、205歳のメバルが知られています。そして、ギネスブックにものっている世界で最長寿の動物は、北大西洋にすんでいるハマグリの中かまでアイスランドガイという貝です。なんと最長で507年も生きていたそうです。この貝は日本なら戦国時代から生きていたことになり。

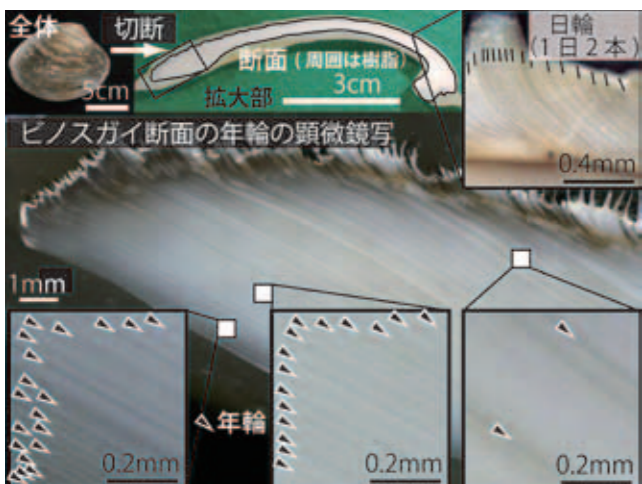
長生きのピノスガイ

実は大槌の海にも、とても長生きする貝が生きていることが私たちの調査でわかってきました。写真の「ピノスガイ」という貝です。写真の貝は浪板海岸の沖、水深

20メートルの場所から採ってきた貝で、なんと200年以上も生きていたことがわかりました！ 報告されている限りでは、おそらく日本一長生きしている動物だと考えていて、現在詳しく調べているところです。そして、大槌の海には数度の津波を生き延びてきた、もっと長生きしている貝が今でもすんでいるはず。では、貝の年齢はどうやって調べるのでしょうか？ 実は貝の外側に見える「しましま」は年輪とは限りません。なので、外側に見える「しましま」を数えても年齢を調べることはできません。年輪を見るためには貝を切って、その断面を見る必要があります。写真にはピノスガイの断面に見える年輪を顕微鏡を使って写真を撮ったものです。矢印で示しているのが年輪で、この数を数えてやると年齢がわかります。

年輪でわかる環境

そして、貝は長生きだけでなく、記憶力も抜群



大槌の長生き貝、ピノスガイ。断面に見える年輪を顕微鏡を使って写真を撮ったもので、矢印で示しているのが年輪。年輪の数を数えることで年齢がわかる



白井 厚太郎 1980年愛知県生まれ。専門は地球化学・古環境学。貝がらやサンゴなど、海の生き物が作る炭酸カルシウムの骨格を分析することで過去の環境変動を調べている。珍しい貝を見つけたら是非ご連絡ください！

です。実は私の研究は貝の年齢を調べることではありません。貝がらの年輪の幅や成分を調べることで、昔の環境がどんなだったのかを解読する研究をしています。写真の年輪の幅に注目してみてください。ある年は年輪の幅が広い、ある年はせまい、というように年ごとに違う事がわかると思います。貝がらの年輪の幅は、「その年が貝にとつてどれくらい快適だったか」を示しています。北の貝は暖かい年によく育つことが多いので、年輪の幅が広い年ほど暖かかったということがわかるわけです。この年輪の幅を先端から根元に向かって計っていくことで、大槌の海の水温がどのように変化してきたかを過去200年間さかのぼって調べることができるのです。さらに、貝がらに含まれている成分を分析することで、他にもいろいろな環境のことを調べることが出来ます。大槌の貝がらの記録からグローバルな環境変動を明らかにする、それが現在取り組んでいる研究テーマです。

東京大学大気海洋研究所・国際沿岸海洋研究センター助教 白井厚太郎

「質問コーナー」

皆さんからの質問をお待ちしています。住所、氏名、連絡先(電話番号など)を明記し〒028-1102 大槌町赤浜2-106-1 東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターへ。ファクス0193(42)5612でも受け付けます。選ばれれば、次回以降のこのコーナーで質問にお答えします。

▼水産施設のネーミングライツパートナーを募集します

町では、水産施設の安定した運営を確立し、町民サービスの向上に寄与するため、施設にふさわしい愛称を付けることができる権利(ネーミングライツ)を取得するネーミングライツパートナーを魚市場など町有の水産施設3施設で募集します。

なお、今回、魚市場へのネーミングライツについては全国初の取り組みです。

■募集期間 原則3年
平成27年3月10日(火)まで

■申込み方法 募集要項に記載されている必要書類を大槌町役場農林水産課まで提出ください。

■実施予定日 平成27年7月上旬頃

※募集要項については町ホームページをご参照ください。

■農林水産課(木村・杉本)
Tel 0193(42)8717
suisan2@town.otsuchi.iwate.jp



▼マイナンバー(個人番号)制度が始まります

本年10月から、住民票を有する住民の皆さま一人一人に、12桁のマイナンバー(個人番号)が付番・通知されます。

マイナンバーは、来年1月から、①年金事務、医療保険事務、生活保護事務などの社会保障事務、②確定申告などの税務事務、③被災者台帳事務などの災害対策事務の事務に続き、申請書類に記載するなどの方法で使用されます。

マイナンバーの利用により、各種手続における納税証明書や住民票などの添付書類の削減、行政給付の不正受給の防止、個人のニーズに応じたきめ細かな行政サービスの提供など、様々な効果が期待できます。

マイナンバーの取扱いについて
マイナンバーは、社会保障、税および災害対策の手続きのために行政機関などに提供することはできません。他人のマイナンバーを不正に入手したり、正当な理由なく提供したりすると、処罰されることがあります。

マイナンバーは、基本的に、不正に使われるおそれがある場合などを除いて、一生使うものですので、大切にしてください。

マイナンバーの通知について
マイナンバーの通知は、住民票に登録されている住所あてに、マイナンバーが記載された「通知カード」を送付することによって行われます。さらに、通知カードに同封された申請書に必要な事項を記載して返送すれば、役場窓口で「個人番号カード」の交付を受けることができます。



個人番号カードは、本人確認のための身分証明書として利用できるほか、カードのICチップを用いて、各種電子申請などのサービスに利用できます。

■お問合せについて
国により、誰でもマイナンバーについてお問い合わせいただけるコールセンターが設置されているので、ご不明な点などがありましたら、ご活用ください。

○日本語窓口 Tel 0570(20)0178
(全国共通ナビダイヤル)
○外国語窓口 Tel 0570(20)0291
(全国共通ナビダイヤル)

○対応時間 9時30分から17時30分
(土日祝日・年末年始を除く)

※特に町に関係するご質問については、左記へお問い合わせください。

○総務課総務班 Tel 0193(42)8710

■住民の皆さまへお願い
通知カードは、仮設住宅などにお住まいの方は、必ず、郵便物が現在お住まいの住所に届くよう、住所変更や、郵便物の転送手続などを行っていただきますようお願い申し上げます(郵便物の転送は、1年ごとに更新が必要です)。

生涯学習課からのお知らせ

▶スポーツの分野で優秀な成績を残した高校生(町内中学校出身)を紹介します

昨年は大槌出身の高校生が「全国高等学校総大会」女子なぎなた競技において団体3位になるなど、大槌・吉里吉里中学校出身の生徒がスポーツの分野で優秀な成績を多く残しました。このことについて、全国大会出場、東北大会出場などの優秀な成績を残した大槌・吉里吉里中学校出身の高校生の成績を紹介します。

◎平成26年全国高等学校総大会【南関東インターハイ2014】

競技名	成績	名前	出身中学校及び現在所属校
女子なぎなた競技	団体第3位	中村 知華	【大槌中】岩手県立釜石商工高等学校3年生
相撲競技	個人出場	三浦 幸也	【大槌中】青森県立弘前実業高等学校2年生

◎平成26年度全国定時制通信制体育大会

競技名	成績	名前	出身中学校及び現在所属校
卓球競技	女子団体出場	黒沢 早苗、三浦 瞳(1年) 小野 有希奈、田中 珠里(3年)	【大槌中】岩手県立釜石高等学校
陸上競技	男子200m・4×100mR出場	吉田 隼人	【大槌中】岩手県立釜石高等学校2年生

平成26年度東北高等学校選手権大会

競技名	成績	名前	出身中学校及び現在所属校
なぎなた競技	団体第2位	中村 知華	【大槌中】岩手県立釜石商工高等学校3年生
相撲競技	団体出場	小原 祐也	【大槌中】青森県立弘前実業高等学校3年生
	団体出場・個人2位(100~80kg第)	三浦 幸也	【大槌中】青森県立弘前実業高等学校2年生
	団体出場・個人3位(100~80kg第)	岩間 弘将	【大槌中】青森県立弘前実業高等学校3年生
	個人出場(100~80kg)	高橋 直也	【大槌中】岩手県立平舘高等学校2年生
水泳競技	女子400mメドレーリレー出場	菊池 唯	【吉里中】岩手県立釜石商工高等学校2年生

◎第96回全国高等学校野球選手権大会(夏甲子園)

名前	出身中学校及び現在所属校
前川 剛大	【吉里中】盛岡大学付属高等学校3年生

第19回東北高等学校新人陸上競技選手権大会

成績	名前	出身中学校及び現在所属校
男子走幅跳出場	松村 五壽	【吉里中】花巻東高等学校1年生

第22回東北高等学校相撲選抜大会

成績	名前	出身中学校及び現在所属校
個人第5位(100~80kg)	高橋 直也	【大槌中】岩手県立平舘高等学校2年生
個人(100~80kg)出場	三浦 幸也	【大槌中】青森県立弘前実業高等学校2年生

◎第93回全国高校サッカー選手権大会 岩手県予選

成績	名前	出身中学校及び現在所属校
第1位(全国選手権出場決定)	伊藤 一成	【大槌中】岩手県立遠野高等学校3年生

◎第22回東北高等学校新体操選抜大会

成績	名前	出身中学校及び現在所属校
男子団体第1位(全国大会出場決定)	関 真人	【大槌中】盛岡市立高等学校2年生

第22回東北高等学校新人水泳競技大会

成績	名前	出身中学校及び現在所属校
女子400mメドレーリレー出場	菊池 唯	【吉里中】岩手県立釜石商工高等学校2年生

第28回東北高等学校空手道選手権大会

成績	名前	出身中学校及び現在所属校
男子個人組手・団体組手出場決定	小松 流維	【大槌中】岩手県立釜石商工高等学校1年生
女子団体組手出場決定	関谷 麻緒	【吉里中】岩手県立釜石商工高等学校2年生

平成 25 年度釜石大槌地区行政事務組合決算報告

釜石大槌地区行政事務組合では、釜石市・大槌町からの分担金によって共同で消防業務や、し尿処理事業を行っています。今回、組合議会 10 月定例会で認定された平成 25 年度決算の概要をお知らせします。

平成 25 年度事務組合会計歳入歳出決算

【歳入】

科目	年度	平成 25 年度			対前年度比較	
		予算現額 (円)	決算額 (円)	構成比率 (%)	増減額 (円)	増減率 (%)
1 分担金及び負担金		1,361,408,000	1,458,627,000	50.6	△ 249,234,000	△ 14.6
2 使用料及び手数料		6,900,000	7,786,241	0.3	346,621	4.7
3 国庫支出金		1,345,452,000	459,536,000	16.0	82,792,000	22.0
4 県支出金		28,116,000	26,949,000	0.9	26,949,000	皆増
5 財産収入		1,000	835	0.0	△ 88	△ 9.5
8 繰越金		1,023,131,000	912,552,608	31.7	△ 139,579,337	△ 13.3
9 諸収入		7,956,000	8,300,600	0.3	△ 7,312,716	△ 46.8
10 組合債		6,200,000	6,100,000	0.2	6,100,000	皆増
歳入合計		3,779,164,000	2,879,852,284	100.0	△ 279,938,520	△ 8.9

【歳出】

科目	年度	平成 25 年度			対前年度比較	
		予算現額 (円)	決算額 (円)	構成比率 (%)	増減額 (円)	増減率 (%)
1 議会費		189,000	166,727	0.0	△ 181,943	△ 52.2
2 総務費		38,443,000	37,470,001	1.6	△ 774,100	△ 2.0
4 衛生費		217,906,000	216,588,993	9.0	86,922,500	67.0
5 消防費		992,079,000	974,614,138	40.7	55,518,987	6.0
6 公債費		185,602,000	185,590,127	7.8	△ 2,690,980	△ 1.4
7 災害復旧費		2,343,945,000	979,999,854	40.9	8,397,180	0.9
8 予備費		1,000,000	0	-	-	-
歳出合計		3,779,164,000	2,394,429,840	100.0	147,191,644	6.5

【市町分担金及び負担金内訳】

	分担金及び負担金 (円)	構成比率 (%)
釜石市	992,858,000	68.1
大槌町	465,769,000	31.9
合計	1,458,627,000	100.0

平成 25 年度行政事務組合の主な事業



完成した釜石消防署庁舎

【災害復旧事業】

事業名	事業費 (千円)
消防ポンプ自動車購入事業	33,980
消防庁舎建設事業 (釜石・大槌消防署庁舎)	611,385
消防指令センター整備事業	334,635

【消防業務】

	火災件数 (件)	前年度比較	救急件数 (件)	前年度比較
釜石市	9	△ 5	1,424	△ 76
大槌町	5	4	572	38
合計	14	△ 1	1,996	△ 38

【し尿処理事業】

	収集量 (kl)	比率 (%)	前年度比 (%)
釜石市	17,062.9	58.6	△ 5.8
大槌町	12,057.8	41.4	8.3
合計	29,120.7	100.0	△ 0.4

【消防施設整備事業】

事業名	事業費 (千円)
防火水槽設置事業	12,080
釜石消防署庁舎器具備品購入費	40,388
再生可能エネルギー等導入事業	29,715

釜石大槌地区行政事務組合業務部総務課 Tel 0193-31-1336

都市整備課からのお知らせ

▶ 県道大槌小槌線などの仮設道路切り替えについて



町方地区内の盛り土工事に伴い、1月30日(金)午前10時より、左図のとおり県道大槌小槌線などの仮設道路の切り替えを行います。

また、切り替えに伴い、町民バスの江岸寺前バス停が切り替え後の道路に移動し、岩手県交通・町民バスの城内バス停が始発便から当面の間休止します。

なお、町役場、城山公民館までのルートにつきましては、1月6日(火)より左図のとおり変更します。

皆さまには、ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

都市整備課 Tel 0193-42-8723

保健福祉課からのお知らせ

▶ 福祉灯油等助成金の支給について

高齢者や障がい者などのいる低所得者世帯に対して、冬期間における経済的負担の軽減を図るため、「福祉灯油等助成金」を支給します。

平成 26 年 12 月 1 日現在で支給対象と見込まれる世帯に対し、平成 27 年 1 月 5 日に申請書を送付します。

■ 対象となる世帯 (基準となる日: 平成 27 年 1 月 1 日)

平成 26 年度町民税非課税世帯であって、次の各要件のいずれかに該当する世帯

世帯の状況	要件
高齢者世帯	世帯員全員が満 65 歳以上 (昭和 25 年 1 月 1 日以前生まれ) の世帯
障がい者世帯	ア 身体障害者手帳の交付を受けている イ 療育手帳の交付を受けている ウ 精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている エ 特別児童扶養手当を受給して、児童を監護または養育している オ 障害基礎年金を受給している カ 要介護 4 または 5 の要介護認定を受けている キ 知的障がい児または知的障がい者と判定されている ク 特定疾患医療受給者証の交付を受け、かつ重症患者の認定を受けている
ひとり親世帯	母子世帯、父子世帯、または養育世帯 (児童は平成 8 年 4 月 2 日以後生まれ)
生活保護世帯	生活保護制度の被保護者世帯

■ 支給額 1 世帯 5,000 円

■ 申請受付期間 平成 27 年 1 月 5 日 (月) ~ 平成 27 年 1 月 30 日 (金)

■ 申請受付場所 町保健福祉課窓口 ※各地区での特設窓口も実施します。

※特設窓口の日程は申請書に同封しますので、ご確認ください。

町ホームページまたは保健福祉課 Tel 0193-42-8715

▶ 児童扶養手当と公的年金の併給制限が見直しされます

児童扶養手当法の改正により、平成 26 年 12 月 1 日以降、公的年金給付の額が児童扶養手当の額よりも低い場合に、その差額分の手当が支給できるようになりました。

今まで、老齢年金や障害年金においてこの加算を受けていて児童扶養手当を受けられなかった人は、この改正により受けられる可能性があります。詳しくは、下記へお問い合わせください。

町ホームページまたは保健福祉課 Tel 0193-42-8715

健診・相談・予防接種

健診・相談を下記のとおり実施します。会場は大槌町仮設保健センター（寺野）です。また、予防接種を受ける際には、予診票と母子健康手帳を忘れずにお持ちください。水痘（水ぼうそう）予防接種の会場は、大槌町役場多目的会議室（役場隣の体育館）になりますのでお間違えのないようご注意ください。

【4ヵ月・7ヵ月児相談】

- 実施日 1月7日（水）
- 対象者 平成26年6月生まれ及び平成26年9月生まれ
- 受付時間 9:30～10:00（平成26年6月生まれ）
13:30～14:00（平成26年9月生まれ）

【四種混合（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）予防接種】

- 接種日 1月23日（金）
- 対象者 平成24年5月生まれ～平成26年10月23日生まれ以前（生後3ヵ月～生後90ヵ月）
- 受付時間 13:00～13:20

【1歳6ヵ月児健康診査】

- 実施日 1月16日（金）
- 対象者 平成25年6月生まれ及び平成25年7月生まれ
- 受付時間 12:00～12:30

【水痘（水ぼうそう）予防接種】

- 接種日 1月27日（火）
- 対象者 平成22年2月生まれ～平成25年12月生まれ
- 会場 大槌町役場多目的会議室（役場隣の体育館）
- 受付時間 13:00～13:20

【2歳6ヵ月児健康相談】

- 実施日 1月14日（水）
- 対象者 平成24年6月生まれ及び平成24年7月生まれ
- 受付時間 9:30～10:00（平成24年6月生まれ）
13:30～14:00（平成24年7月生まれ）

☎ 保健福祉課 健康推進班 TEL 0193-42-8715

平成26年度65歳到達者健康教室のご案内

大槌町長寿課では、65歳に到達された方に介護保険証を交付すると併せて、介護保険制度や介護予防に関する説明会「65歳到達者健康教室」を開催しています。

■対象者

- ①大槌町に住所を有する方で65歳を迎える方（対象者には個別にご案内を送付します）
- ②今年度4月～12月の65歳到達者健康教室欠席者の中で、介護保険制度や介護予防に関心をお持ちの方
- ③介護保険制度や介護予防に関心をお持ちの方（年齢に関わらずご参加いただけます）

■会場及び日程

対象者	月日	会場
昭和25年1月2日～2月1日	1月19日（月）	大槌町役場3階 中会議室
昭和25年2月2日～3月1日	2月16日（月）	大槌町役場3階 小会議室4・5
昭和25年3月2日～4月1日	3月16日（月）	大槌町役場3階 小会議室4・5

※日程が変更となる場合があります。対象者②、③に該当される方は事前にご確認ください。

■時間 13:30～14:30

■内容 ・65歳に到達された方に介護保険証の交付 ・介護保険制度、サービス利用についての説明
・介護予防についての説明 ・大槌びんころ体操

■持ち物 介護予防チェックリスト、高齢者実態把握調査（対象者①の方、また対象者②の方で提出されていない方）

■申込み 不要

☎ 長寿課 地域包括支援班 TEL 0193-42-8716

おやこで楽しくクッキング～おやこの食育教室

子どもたちが、調理実習を通して料理の楽しさや食事の大切さを知り、健康的な生活が送れるよう料理教室を行います。

■日時 1月31日（土）10:00～13:00

■場所 桜木町保健福祉会館

■対象 町内小学1年生から3年生までの児童と保護者

■定員 10組（先着順）

■持ち物 エプロン

■申込期限 1月23日（金）

■主催 大槌町食生活改善推進員団体連絡協議会

☎ 保健福祉課 健康推進班 TEL 0193-42-8715

ここでは、高齢者に関わる様々な話題を掲載しています。

地域でさりげない見守りを

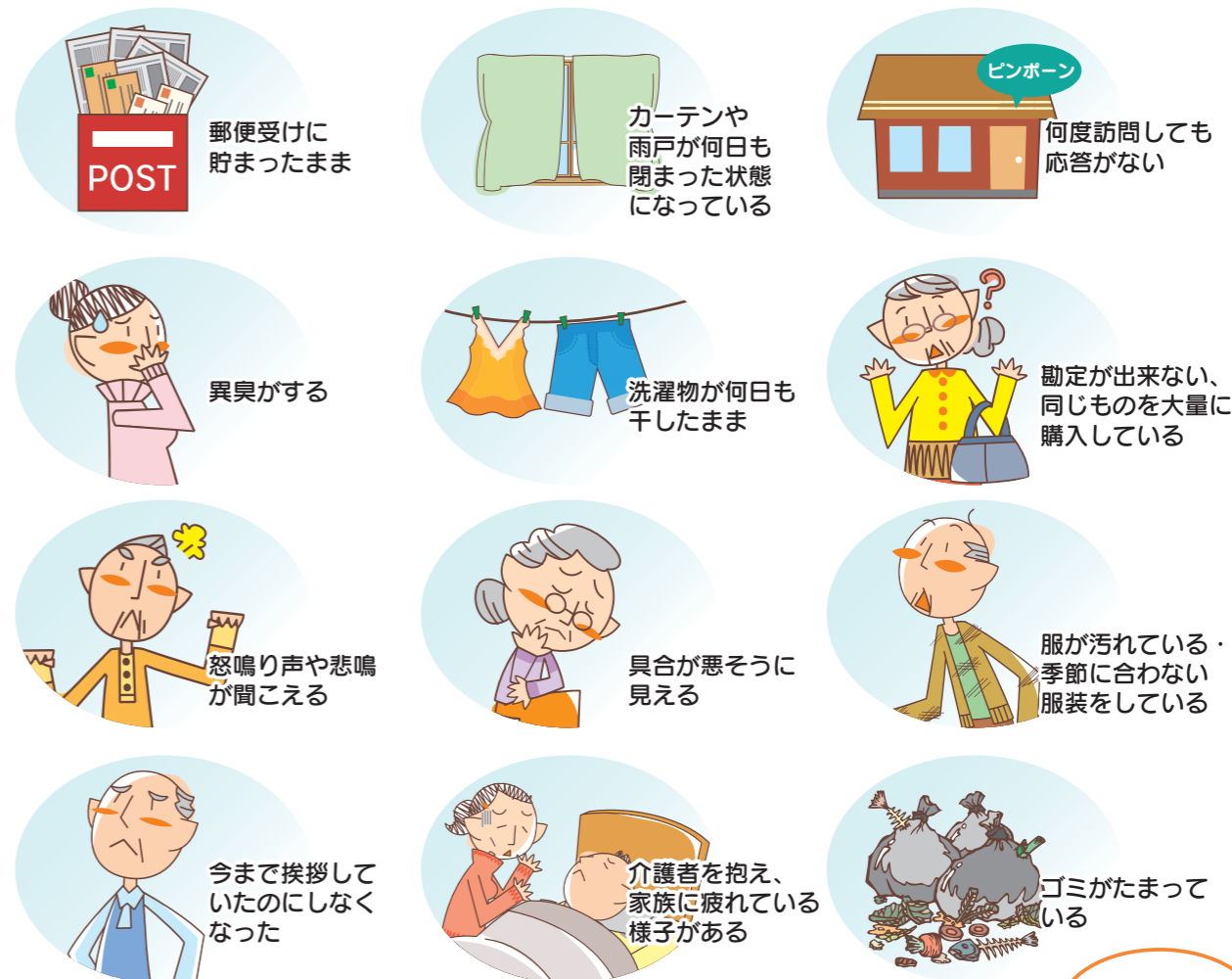
見守り活動の目的

お住まいの地域において、地域の住民や支援者等が行う「あいさつ」、「声かけ」、「生活の様子を気にかける」などといった日常の活動を通じて、共に支え合い、安心して暮らし続けることができる地域づくりを進めることです。

見守り活動を実践することで、支援が必要になった方に早い段階で専門機関や地域の人たちが支援の手を差し伸べることができます。

愛のあるアイ（目）でみまもりを!!（大槌町見守り活動のキャッチコピー）

高齢者見守りのポイント・サイン



**いつもと違った感じがする…何か様子がおかしい…
そんな時はお知らせください。**

高齢者らの異変に気付いた時には
大槌町地域包括支援センターにご連絡ください。

私たちが相談に応じます



☎ 大槌町地域包括支援センター TEL 0193-42-8716

ひょうたん島日記

「鮭まつり」今年も ～つかみどりに歓声～

町の初冬の風物詩として昨年、復活した「おおつち鮭まつり」のサケのつかみどりが12月7日、大槌川の河川敷でありました。

大槌川の浅瀬に設けられた天然のいけすにサケが放流され、受付先着順の100人が10組に分かれて挑戦。大人も子どもも、軍手、胴長靴姿で奮闘し、1人1尾を持ち帰りました。紫波町の塚沢さおりさんは、家族5人で訪れ、4人がつかみどりに参加しました。塚沢さんは「サケはぬるぬるしていて暴れまわるため、なかなか捕まえることができませんで



た。楽しかった」と感想を述べました。

まつりのステージでは、郷土芸能や、大槌町出身で盛岡市内の高校に通う白澤みさきさんによる「里帰りミニライブ」がありました。

自治会、NPO 法人が一堂に ～第1回コミュニティ協議会～

町内の自治会、NPO法人、町役場の関係者らが一堂に会した第1回コミュニティ協議会が12月3日夜、中央公民館大会議室で開催され、約50団体から約90人が参加しました。協議会により、関係各団体が連携して力を合わせ、それぞれの活動を活性化させようというねらいがあります。

この日の会合では、1部で、町役場から開催の趣旨の説明や、自治会や町内会の具体的な活動事例が紹介されました。2部の交流会では、「健康づくり」「子育て」「環境づくり」「観光」などのテーマごとに6班に分かれて話し合いました。



最後のまとめで、大槌町のまちづくりに関わっている大方潤一郎東京大学教授が「問題を共有し、実現に向けて戦略を練り、実施する。協議会は、まちづくりの中核的な存在になるのではないかと締めくくりました。

ビリケンさんが「一日町長」 ～町内で「福」を振りまく～

「幸運をもたらす神様」として知られる大阪・通天閣のシンボル「ビリケンさん」が12月2日、大槌町の「一日町長」になりました。委嘱式で碓川町長は「希望と勇気と笑顔を届けてくれてありがとう。復興に向けて的確な指示をお願いしたい」とあいさつしました。

ビリケンさんは、とがった頭とつり上った目に特徴があり、足の裏をなでると御利益があるとされています。1900年代に米国で制作され、世界中に流行しました。一日町長になったのは通天閣2代目のビリケンさんで、所属する通天交響楽団の拠点・大阪



府柏原市が大槌町を支援している関係で、一昨年秋と昨年夏にも、一日大槌町長になりました。

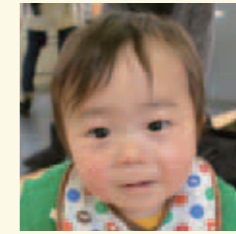
ビリケンさんは4日まで大槌町に留まり、町内の仮設住宅や幼稚園、保育園を回って「福」を振りまきました。

すくすく 赤ちゃん

このコーナーでは、町内の1歳前後の赤ちゃんを紹介しています。今月は平成25年11生まれの赤ちゃんです。



きくち まいみ ちゃん
平成25年11月5日生
お姉ちゃんに負けないおてんば娘♡
いっぱい食べて元気に育ってね!
(家族代表者名: 菊池 勉)



きくち りゅうと くん
平成25年11月13日生
元気いっぱい、笑顔でお兄ちゃん
と遊んでいます。
(家族代表者名: 菊池 隆雄)



おがわ はるま くん
平成25年11月16日生
お兄ちゃん大好きな陽真くん
これからも仲良くね!
(家族代表者名: 小川 浩史)



さとう りゅうしゅ くん
平成25年11月25日生
いつもニコニコで元気いっぱい!
(家族代表者名: 佐藤 弘誓)



ささき ゆずき ちゃん
平成25年11月21日生
いつもニコニコ、元気いっぱい
な双子のお姉ちゃんです。
(家族代表者名: 佐々木 重一郎)



ささき みそら ちゃん
平成25年11月21日生
いたずらっ子で、笑顔が可愛い
双子の妹ちゃんです。
(家族代表者名: 佐々木 重一郎)



こばやし あみ ちゃん
平成25年11月26日生
元気いっぱい!!
イタズラ大好き♡
(家族代表者名: 小林 敬久)



とくだ しゅんと くん
平成25年11月29日生
いつも活発でニコニコゆんでい
です!!
(家族代表者名: 徳田 眞)

PHOTO まちかど



「おおつち鮭まつりの日に大槌川で撮影したサケです。東大の大気海洋研究所が定置網漁で獲れたサケに信号器を付けて放したそうです。湾内からどのように移動するか調べるためです。昨年からはじめた調査で、今シーズンは49尾が調査対象だそうです」
【12月7日、三浦寧史さん撮影】



「新巻鮭づくりがピークを迎えています。今年は震災の影響で不漁になるのではないかと心配されていましたが、秋サケ定置網漁は今のところ順調なようです。新山おろしの寒風にさらされ、身の引き締まった新巻ができあがります」
【12月15日、伊藤陽子さん撮影】



城山の風

発行：大槌町教育委員会 第83号 27. 1. 5
岩手県上閉伊郡大槌町小槌32 金崎126 Tel 42-6100

教育行政基本理念

町づくりは
人づくりにあり
人づくりは
教育にあり

学びを支える

学校支援ボランティア

大槌町では、町内の全小・中学校を「いわて型コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育校」として位置づけ、9年間の教育の見通しを学校・家庭・地域と共有・協働しこれからのふるさとを支え、担う人材となる子どもたちを育てていく教育を進めていきます。

これまで、教育は学校任せの感がありましたが、これからは家庭や地域との積極的な関わりの中で教育を考えます。その一翼を担うのが学校支援ボランティアの活動です。

ボランティアさんの感想です

○大勢の子どもたちとの活動はしばらくぶり。とても楽しい時間でした。



○私たちは「吉里吉里の昔話」を子どもたちに伝えたいと思っていましたが、ふるさと科の企画によって、やっと実現することができました。
○地域の1人として、生徒たちにかかわれたことは非常によかったです。

○学校と地域を結ぶ役割を担う「地域コーディネーター」です。学校からの依頼で、人材探しから、物品の準備まで、何でもこなします。



木村里美さんと菅野祐太さん

○主幹教諭はじめ地域コーディネーターの方との事前準備が十分でしたので、子どもと心配なく楽しく役目を果たすことができ感謝しています。
○地域の助け合いやつながりが希薄になりがちな昨今、地域コーディネーターの役割は必要であると感じます。益々の活躍を期待しています。

教育委員会定例会リポート（11月）

11月定例会は、27日（木）に開催され、議案、報告それぞれ1件について審議されました。

【議案第24号】

大槌町指定文化財の解除について

・東日本大震災津波により、流失・焼失した民俗文化財2件、有形文化財6件の指定文化財について、大槌町文化財保護審議会から答申が出されたのを

受けて審議、議決したものです。

【事務報告7】

工事請負契約の締結について

11月19日に行われた（仮称）おおつち学園小中一貫教育校の入札で、施工業者が（株）銭高組に決定したことから、大槌町議会12月定例会で請負契約の議決を求めることとしたものです。

大槌小県・全国レベルでの受賞続出

やったね！ ぼくらのがんばり



スポーツの秋に続いて、文化・芸術部門でも子どもたちのがんばりが見られ、県レベル、全国レベルでの上位入賞が相次ぎました。12月17日に大槌小学校で行われた伝達式には同校でのコンクール上位入賞者が出席し、輝く笑顔で喜びをかみしめさらなるがんばりを誓い合いました。

〈よろこびの入賞者〉

*ガンバレ岩手！私のおすすめの本メッセージカード
コンテスト

優秀賞 3年 岡本 鈴

*JA 共催児童生徒作品コンクール

絵画の部 金賞 5年 佐々木颯太

*第21回私の街に「こんなトラックあったらいいな」
絵画コンクール

大型ディーラー特別賞 3年 石井 優聖

*平成27年度愛鳥週間 ポスターコンクール

最優秀賞 5年 東梅 萌

（全国コンクールでも入選。

全国44,676点の応募）

あわせて優良団体賞も受賞

*平成26年度心の輪を広げる体験作文コンクール
優秀賞 5年 岩間 大翔

*三菱UFJ環境財団（全国コンクール）

第39回「みどりの絵コンクール」

優秀賞 4年 高清水 倅奈

（全国24,718点の応募）

*平成26年度第47回岩手県読書感想文コンクール

優秀賞（県図書館協会長賞）

2年 玉城 心春

あわせて学校賞も受賞



まちのお知らせ

防災士養成研修講座を開催します

町は町民、町職員、町内事業者等を対象として防災士を養成し、町の防災力向上を図るため、防災士養成研修講座を開催します。

■日時 2月14日(土)から2月15日(日)会場研修

2月21日(土)救急救命講習(未受講または期限切れの人を対象)

■場所 大槌町役場多目的会議室(旧大槌小学校体育館)

■申込期限 平成27年1月16日(金)まで

お申し込み方法や詳細につきましては、町ホームページ、または下記連絡先までお問い合わせください。

☎ 総務課 危機管理室 Tel 0193-42-8781 (担当:辻)

移転先団地の随時募集のお知らせ

町は、防災集団移転促進事業による、移転先住宅団地の募集を随時行っております。募集する住宅団地、画地数などは変動しますので、詳しくは町ホームページをご覧ください。

■募集している住宅団地

▷町方、小枕・伸松地区(5宅地)

▷吉里吉里・浪板地区(7宅地)※2宅地追加となりました。

☎ 都市整備課 Tel 0193-42-8723

ママたちのお茶っこ「まんまるサロン」好評開催中です

手作りお菓子とハーブティーでほっこりおしゃべり。アロマのハンドマッサージでゆったりリラックス。お子さん連れ大歓迎のお茶っこサロンです。岩手県助産師会の助産師がお待ちしています。お気軽にお越しください。

■日時 1月28日(水) 10:30～12:30 ■場所 上町ふれあいセンター

■参加費 500円(事前の申し込み不要です)

■対象 子育て中のママ、妊婦さん、妊娠を考えている方も大歓迎!

■内容 赤ちゃんの体重測定、子育て相談、母乳やミルク・離乳食の相談、ママ同士の交流、女性のこころとからだに関する悩み相談など

☎ AMDA 大槌健康サポートセンター Tel 0193-55-5421

町内各地の放射線量についてお知らせします

町内の放射線量測定結果についてお知らせします。12月15日に測定した結果は下の表のとおりです。なお、国の除染基準は0.23 毎時マイクロシーベルトです。

☎ 町民課 町民生活班 Tel 0193-42-8713

測定地点	放射線量	測定地点	放射線量
小鎚小学校仮設団地	0.066	大槌第5仮設団地(和野橋下流)	0.071
小鎚仮設団地(佐野屋球場)	0.073	金沢小グランド	0.062
大槌町役場	0.071	桜木町中央公園	0.071
安渡第2仮設住宅(旧小学校)	0.068	源水(屋敷前)	0.073
赤浜小学校グラウンド	0.064	大ケ口公園	0.071
吉里吉里中学校仮設団地	0.068	沢山地区(高森団地)	0.066
吉里吉里第5仮設団地(駅公園)	0.068	沢山地区(郵便局脇)	0.066
吉里吉里第2仮設団地(浪板)	0.073	花輪田定住促進住宅裏	0.068
大槌第7仮設団地(大槌橋下流)	0.073	測定地点平均値	0.066

講演会「津波から復興した奥尻島20年の軌跡」を開催します

■講師 奥尻島津波語りべ隊 制野 征男さん(奥尻島観光協会会長)

■日時 平成27年1月21日(水) 昼の部 14:00～(1時間程度) 和野つこハウス

夜の部 18:00～(2時間程度) 町役場3階大会議室

■協力 NPO法人サンガ岩手

☎ 復興まちづくり大槌株式会社(主催) Tel 0193-55-6650(担当:松岡)

おめでた・おくやみ(敬称略)

11月15日～12月15日分

【出生】

谷 藤 隆 暉 (邦 範・元 村)

藤 原 奈 々 (学 ・桜 木 町)

小 國 聖 奈 (文 哉・上 町)

三 浦 壮 恭 (義 章・大ケ口一)

新 田 愛 莉 (純 粋・大ケ口二)

【婚姻】

{金 崎 公 威 (源 水)

{菊 池 葵 (沢 山)

{阿 部 高 広 (大 町)

{倉 沢 ひとみ (安 渡 三)

【死亡】

佐々木 兵 吉 (93・中川原)11/16

佐 藤 テ ル (89・沢 山)11/18

三 浦 一 郎 (76・大ケ口二)11/20

三 上 テ ル (91・吉里吉里三)11/27

三 浦 猛 (73・大ケ口一)11/27

小 林 靖 子 (85・桜 木 町)11/30

関 谷 豊 吉 (82・吉里吉里一)11/30

岩 間 リツ子 (85・源 水)11/30

浦 田 昌次郎 (78・大ケ口)12/3

小 國 榮 (75・沢 山)12/9

岩 間 晶 子 (94・大 町)12/11

阿 部 嗣 (68・沢 山)12/12

八 巻 富 代 (94・源 水)12/14

東大教室@大槌

中央公民館2階の「大槌文化ハウス」で公開講座を開催します。

○太陽系の教室－惑星や小惑星の探査と太陽系博物館

■日時 2月13日(金) 17:00～18:30

■講師 宮本 英昭 東京大学総合研究博物館・准教授(惑星科学)・はやぶさ2サイエンスメンバー

○空間の教室－コミュニティの再生と創出のかたち

■日時 2月14日(土) 10:30～12:30

■講師 松本 文夫 東京大学総合研究博物館・特任准教授(建築学)

■対象 高校生以上 ■受講料 無料

■募集人数 各講座14人

■募集期間 各講座開催前日まで。ただし定員になり次第締め切り

■申込み 氏名・年齢・電話番号・住所・希望講座名を生涯学習課までお伝えください。

☎ 生涯学習課 Tel 0193-42-2300

人権相談について

身のまわりで起きた人権問題(いじめ、虐待、家庭内暴力、離婚、扶養、相続問題、近隣関係、セクハラ、借金問題、その他困りごと)について、法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員が相談に応じます。

■日時 1月20日(火) 10:00～12:00 ■会場 大槌町役場1階 相談室2

☎ 町民課町民生活班 Tel 0193-42-8713

大槌町地域子育て支援センター「かりん」からのお知らせ

大槌町地域子育て支援センター「かりん」では、子育て親子の交流の場の提供や、子育て家庭への育児支援を行っています。1月の行事は下記のとおりです。お気軽にご参加ください。

「12月・1月生 おたんじょうかい」

■日時 1月8日(木) 10:00～11:30

■対象 未就園児とその保護者(祖父母の方も可)

■内容 12月生まれと1月生まれのお友達のお誕生日をみんなでお祝いしましょう。

「すこやかくらぶ」

■日時 1月15日(木) 10:00～12:00 13:00～14:00

■対象 未就園児とその保護者(祖父母の方も可)・産前産後のママ

■内容 花巻市の助産師さんをお招きします。母乳の悩み、身体の悩み、育児の悩みなど相談できます。赤ちゃんの体重測定もできます。今回は、ベビーマッサージを行います。バスタオルを持っていらして下さい。

「ひだまり広場」

■日時 1月29日(木) 10:00～11:30

■対象 未就園児とその保護者(祖父母の方も可)

■内容 大槌保育園のホールを開放します。広いホールで思いっきり遊びましょう。

「臨床心理士相談」「かりんカフェ」

■日時 1月26日(月) 10:00～12:00 13:00～15:00

■対象 未就園児とその保護者(祖父母の方も可)

■内容 臨床心理士の土屋先生もお招きしますので育児や心の悩み、家庭の悩みなど一人で抱え込まないで、是非相談にいらして下さい。専門的なアドバイスが頂けます。同時に「かりんカフェ」も開催。「かりんカフェ」では、温かい飲み物とお菓子を用意しています。毎日忙しいママさんのための「かりんカフェ」で一息つきましょう。

◆のびのび広場(あそび・つどいの広場)◆

■日時 月曜日～金曜日(土日祝日除く)

9:30～12:00、13:00～16:00

■対象 未就学児とその保護者(祖父母も可)

みんなが自由に集える場。子育ては一人じゃない。みんなで育てる共有の場。そんなやさしい空間が「かりん」です。いつでもあそびに来てください。

※1月22日(木)は午前中お休みです。

☎ 大槌町地域子育て支援センター「かりん」

Tel 0193-42-2570

大槌町カレンダー 1月5日(月)～2月5日(木)

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
5(月)		午前:内科、整形外科、眼科 午後:内科
6(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
7(水)	4ヵ月・7ヵ月児相談	午前:内科、皮膚科 午後:内科
8(木)	心配ごと相談 さわやかストレッチ教室 元気活いき運動教室	午前:内科、外科 午後:内科
9(金)		午前:内科 午後:内科
10(土)		完全休診(急患受付なし)
11(日)		完全休診(急患受付なし)
12(月)		完全休診(急患受付なし)
13(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
14(水)	2歳6ヵ月児健康診査	午前:内科、整形外科、皮膚科 午後:内科
15(木)		午前:内科、外科 午後:内科
16(金)	1歳6ヵ月児健康診査	午前:内科 午後:内科
17(土)		完全休診(急患受付なし)
18(日)		完全休診(急患受付なし)
19(月)		午前:内科、整形外科、眼科 午後:内科
20(火)	行政相談、人権相談	午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
21(水)	講演会「津波から復興した奥尻島20年の軌跡」	午前:内科、皮膚科 午後:内科
22(木)	元気活いき運動教室	午前:内科、外科 午後:内科

日付	大槌町内イベント	大槌病院外来
23(金)	四種混合予防接種	午前:内科 午後:内科
24(土)		完全休診(急患受付なし)
25(日)		完全休診(急患受付なし)
26(月)		午前:内科、眼科 午後:内科、整形外科
27(火)	水痘予防接種	午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
28(水)	まんまるサロン	午前:内科、整形外科、皮膚科 午後:内科
29(木)	さわやかストレッチ教室	午前:内科、外科 午後:内科
30(金)		午前:内科 午後:内科
31(土)	おやこの食育教室	完全休診(急患受付なし)

2月

1(日)		完全休診(急患受付なし)
2(月)		午前:内科、整形外科、眼科 午後:内科
3(火)		午前:内科、外科、皮膚科 午後:内科、皮膚科
4(水)		午前:内科、皮膚科 午後:内科
5(木)		午前:内科、外科 午後:内科

※大槌病院外来日程は都合により変更となる場合があります。※心配ごと相談は、大槌町社会福祉協議会で実施しています。相談内容についてはお問い合わせください。

☎ 大槌町社会福祉協議会 Tel 0193-41-1511

訂正のお知らせ
平成26年12月5日発行「広報おおつち No.596」23ページの、おめでた・おくやみの欄で、お名前に誤りがありました。右記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。(誤)三浦 涼汰 ⇨ (正)三浦 涼太

②1 浪板海岸の「蜃気楼」



「七草粥」正月七日に食する習慣。メディアへの露出が多く、認知度は高くなっているようですが、大槌に習いとしてあったものかどうか。

語源辞典によれば、七草粥の風習は、中国大陸からの伝来、平安中期頃に始まったとされます。「春の七草」のセリ、ナズナ、ゴギョウ（母子草）、ハコベラ、ホトケノザ（田平子）、スズナ（かぶ）、スズシロ（大根）を粥に入れて食べます。それぞれにビタミンを補給する意味があるそうです。

日本人に限らず、数字に語義を見いだそうとする傾向があり、「七」は、欧米ではラッキーセブンとも。日本では、末広がりの「八」でしょうか。

そこで「八景」。耳にされた方も多いことでしょう。大槌にも「八景」、あります。資料によると、大正期にはすでにありました。それらは、①大槌城址、②御廟坂、③一本杉、④古廟、⑤御社地、⑥代官所跡、⑦新山、⑧大勝院跡。

平成13（2001）年、新大槌八景を、住民の総意で新たに選定。それが、①蓬萊島、②崎山展望台・野島、③高滝、④新山高原、⑤浪板不動滝、⑥浪板海岸、⑦鯨山、⑧城山公園。

これらは、常にそこにあつて、いつでも見られる場所。この八景も、中国の「瀟湘八景」が起源。その後、時代の変遷によって、意味合いが異なつてきているようです。それは郷土愛醸成のため、或いは観光用、など。

大槌八景、大槌新八景以外にも、優れた景勝、凌する絶景、あります。その一つは、「大槌学のすゝめ」でも紹介させていただいた、浪板海岸の「片寄波に満月」。ちなみに、平成27（2015）年2月の満月は、4日（水）、午後5時21分、大島と野島の中間地点から。

一方、冬の厳寒期に見られるのが「蜃気楼」。おやつと思われる方も多いでしょうが、柳田國男が明治43（1910）年に発表した「遠野物語」。この106話に、「海岸の山田にては蜃気楼年々見ゆ。常に外国の景色なりといふ。見馴れぬ都のさまにして、路上の車馬しげく人の往来眼さましきばかりなり。年ごとに家の形などいささかも違ふことなしといへり」とあります。外国の景色？ どう考えてもありません。

江戸時代後期の紀行家、日本民俗学の先駆者とも称される菅江真澄は、東北各地を巡り、紀行文を残しています。菅江真澄遊覧記、「今ふ能せばの」(ケフノセバナノ)、天明5（1785）年9月30日の項に、現在の北上市「後藤野」でのごととして、「狐の館」が見えるということを書いていきます。「狐の館」とは「蜃気楼」のこと。

宇宙や自然界にも思いを馳せていた、花巻の宮沢賢治、蜃気楼のことを知らないはずはありません。「春と修羅第二集」、409「今日もまたしようがないな」（1925、1、25）と419映画劇「ベリンググ鉄道」序詞（1925、2、15）に、蜃気楼のことを。花巻農学校の教え子に宛てた手紙にも。

文政12（1829）年、江戸深川の浄瑠璃、富本節の語り手、富本繁太夫が著した「筆満可勢」3月2日の項に、山田で蜃気楼を見たことが記されています。また、弘化3（1846）年、伊勢出身の北方探検家・松浦武四郎がまとめた「西蝦夷日誌」にも、蜃気楼のことが。

さて、この蜃気楼、北からの寒気団が南下し、星雲が澄み切つて見える放射冷却の夜、そして翌朝、浪板海岸から望める水平線に、確かな「蜃気楼」が見えます。

大槌町教育委員会事務局生涯学習課長兼図書館長 佐々木健

編集後記

▼編集を行っている12月中旬には、新巻鮭づくりがピークを迎え、町内を回っていると、新巻用に外につるされた鮭を見かけます。12月7日には鮭まつりも行われ、まるで鮭一色の大槌町。広報誌内も表紙からひょうたん島日記、PHOTOまちかどまで鮭一色です。（台野）▼震災から5年目の年が明けました。復興の槌音が響き始め、やつと長いトンネルの出口が見えてきた感じがします。仮設住宅に暮らす方々にとっては震災後、4度目の正月を迎え、「仮申込み」により、住宅を自力で再建するのか、それとも災害公営住宅に暮らすのか、決断が迫られています。今年こそ、トンネルの先に、明かりがあかかと灯る年になりますように。（但木）

浪板海岸から望める「蜃気楼」。写真に載せた横線の位置が本来の水平線。線より上が実景、線の下には実景や空などの反転した虚像が見えます。

地平線或いは水平線に近い大気が冷たく、その上層の大気が暖かい時に出現するのが、富山湾や琵琶湖などで見られる「上位蜃気楼」。一方、その逆で、下が暖かく上が冷たい時、「下位蜃気楼」が現れます。真夏にアスファルトがゆらゆら見える「逃げ水現象」も下位蜃気楼「浮島現象」とも。

上位蜃気楼は春に見えるとされています。下位蜃気楼は冬。星空が綺麗に見える夜、或いは翌朝、早起きして、蜃気楼を眺めてみてはいかがでしょうか。